循環制御歯科学実習（高橋俊介）

Training of Dentistry of Circulation Control （Shun-suke Takahashi）

キーワード

① 口腔科学
② 循環制御歯科学
③ 生活習慣病
④ 口腔－全身循環相関
⑤ 血流依存性血管拡張反応

授業概要

口腔内および全身循環系を研究するための基礎的な測定法とその原理を修得し、口腔内循環の重要性を実際に確認する。また、in vivo における口腔および全身循環機能の測定法について実習する。特にlaser Dopplar flowmetryを用いた口腔および全身の血流量測定および反応性充血を指標にした口腔および全身循環調節機能評価法について深い理解と応用力を身につけ、循環制御歯科学講義の知識の具現化と応用力を養成することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

口腔は外界と接する最大面積を持つ粘膜組織である。したがって、全身疾患の症状が口腔の症状として現れる場合もある。口腔と全身の循環機構の関連性・相互性を学習することは非常に重要であり、循環制御歯科学は、全身と口腔の循環機構の相互メカニズムの解明と同時に、健康に過ごすための予防医療の構築までを包括する学問であり、実習を通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

① 循環制御歯科学的研究計画立案実習　12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
② 循環制御歯科学的解析基礎実習　24コマ
薬理学的研究に必要な基本的解析方法を教授する。
③ 循環動態解析実習　12コマ
様々な循環動態を解析するための基本的手技を教授する。
④ 生活習慣病モデル動物学実習　12コマ
糖尿病、高血圧、肥満モデル動物を用いた循環測定・解析手技を教授する。

実習担当教員　高橋俊介　高橋聡子

教科書および参考書

・血管内皮機能を診る 循環器疾病管理に生かす評価と実際、南山堂、東條美奈子
・非侵襲的検体検査の最前線、シーエムシー出版、槻木恵一監修

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実験プロトコールを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

① 問題を発見し循環制御歯科学的研究計画の立案ができる。
② 循環制御歯科学的解析の理論を理解し実践することができる。
③ 様々な循環動態を解析するための基本的手技を理解し実践することができる。
④ 生活習慣病実験動物の理論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

循環制御歯科学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。